

(社福) わらしべ会 最近の職員海外研修実績



2023(令和5)年12月7~13日 ハワイ

- ・参加職員（野川哲也、山本政男、入谷和樹、岡本静華、公文代淳子）
- ・利用者と一緒にホノルルマラソンを完走するプロジェクト。昨年に続いて2回目であるが、今回はフルマラソン42.195kmに挑戦。
- ・「マラソン参加の感動や、海外の福祉に関する考え方などを職員とシェアし、今回の出張の意義と一緒に「是非とも私も」という声をあげてもらえるように発信を続けていきたいと思っています。」（入谷）



2023(令和5)年11月18~24日 ケニア

- ・参加職員（白井裕梨、後藤めぐみ）
- ・日本人女性医師が開設したケニアの障害児施設「シロアムの園」での実習。昨年に次いで2回目。
- ・「セラピストや先生、アシスタントみんなが子どもたちの目をしっかり見て笑顔で話を聞く。子どもが何をしたいのか、なぜ泣いているのか、丁寧に聞いて対応している姿は感動すら覚える。今、私たちはそんな当たり前のことを出来ているのだろうか。」（後藤）



2023(令和5)年9月20~27日 クロアチア

- ・参加職員（辻和也、西畠利彦、伊東美依那）
- ・脳性まひ児を対象に障害者柔道を実践しているクロアチアの女性指導者のもとを訪れ、視察と交流を行う。
- ・「マリーナ先生が地元のレストランに連れて行って下さり、お腹いっぱいクロアチア料理を食べさせてもらった。コーチたちとも翻訳アプリを使いながら、クロアチアと日本のギャップや柔道についてお話できたのは楽しい体験でした。」（伊東）



2022(令和4)年12月9~14日 ハワイ

- ・参加職員（野川哲也、神澤弦也）
- ・利用者と一緒にホノルルマラソンを完走するプロジェクト第1弾。帰国後、毎日新聞で取り上げていただきました。
- ・「時差ボケ、喋れない英語、慣れない環境等大変な部分はあったけど、何より人の温かさを感じられた。利用者を連れての海外旅行。他の職員も、もちろん利用者のみなさんも一度は経験してもらいたい。」（神澤）



2022(令和4)年11月26~12月3日 ケニア

- ・参加職員（窪田真也）
- ・アフリカ・ケニアにある障害児施設「シロアムの園」での実習。新聞記事に目を止めてメールしたところ今回の実習を受けてくださった。
- ・「十分とは言えない環境で重度の障害を持つ子どもたちの療育にチャレンジするスタッフ、一生懸命に生きて笑顔を見せてくれる子どもたちの姿に励まされ、私自身の福祉へ向き合う姿勢を正してくれた。」（窪田）



2018(平成 30)年 7 月 25~30 日 ベトナム

- ・参加職員（白井裕梨）写真左から 2 人目
- ・旅行会社が企画しているベトナムの戦争・福祉を学ぶツアーに参加。
- ・「ベトナム戦争、知的障がい者施設、孤児院、ストリートチルドレンの支援など多くのことを学びました。世界中からいろんな国のボランティアが来ていて、フランス人男性、中国人女性と話ができ、ツアーを超えた交流ができたのも収穫でした。」（白井）



2017(平成 29)年 12 月 3~9 日 スウェーデン

- ・参加職員（道苗歩）
- ・旅行会社が企画しているスウェーデンの高齢者福祉・福祉用具を学ぶツアーに参加しました。
- ・「日本との違いを感じることもあったが、根本的に同じことは、「誰のための支援なのか」「自己決定の実現」「自立支援をする」という利用者を中心に支援を考えることは、種別（障害者支援）が違っていても共通していると感じた。」（道苗）



2015(平成 27)年 8 月 8~12 日 ハンガリー

- ・参加職員（小川氷見子、藤田敦士）
- ・2人は2回目のハンガリー研修で、今回は上級コースの参加です。
- ・「今回の上級コースの参加を通じて、利用者の持っている可能性を引き出すためには、あらゆるものを考え、組み合わせたり、展開したりといった発想（イメージ）ができることが大切であるということを再確認しました。」（藤田）



2015(平成 27)年 7 月 27~8 月 2 日 ロサンゼルス（米）

- ・参加職員（辻和也、近藤雅一）
- ・知的障害者のスポーツ競技大会であるスペシャルオリンピックスの世界大会（ロサンゼルス）に視察に行きました。わらしべ会で行なっている障害者柔道の今後の展開のため2名が派遣されました。
- ・「柔道競技ではアフリカ、南米からも派遣されていて、日本がこの分野で遅れをとっていることにショックを受けました。日本発祥の柔道が障害者柔道でも世界の模範になるには、国内での啓発が大切だと強く感じました。」（辻）



2014(平成 26)年 4 月 14~18 日 ハンガリー

- ・参加職員（嶋野政男）
- ・ハンガリーのペトゥ研究所での研修です。
- ・「アイデアを職員間を出し合い、わらしべ園独自のペトゥ法に基づいた課題や生活スタイルを確立させることも出来るのではないかと思います。」（嶋野）



2014(平成26)年2月5~18日 スウェーデン

- ・参加職員(近藤雅一) 写真:後列向かって左
- ・ヨーロッパでは広く行なわれている障害者柔道の視察と指導に、関西の女子大柔道部の先生、学生と一緒に去了。
- ・「日本ではあまり見られないのですが、健常者と障害者が一緒になって稽古しているということがすばらしいと感じました。障害者柔道を盛り上げるため、ここわらしべ会から世界に発信できるように頑張っていきたいと思います。」(近藤)



2011(平成23)年11月14~18日 ハンガリー

- ・参加職員(窪田真也)
- ・ハンガリーのブタペストにあるペトウ研究所での研修です。ペトウ研究所は身体障害の人のための国立のリハビリ施設です。わらしべ会は創立当初からこのペトウ法を導入し生活訓練、リハビリを行ってきた関係で、これまで何名もの職員がこの研究所を訪れて研修を受けています。
- ・「ペトウ法では、適切な身体像の学習を行い、それにより変化をもたらすものであるということを目の当たりにしました。」(窪田)